



2019-2020 年度 RI 会長テーマ

RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2019-2020 年度 No.17

事務局 〒939-1652 富山県南砺市福光新町 56

TEL 0763-55-6125

FAX 0763-55-6147

h.tonamire@gmail.com



(マーク・ダニエル・マローニ会長)

2019-2020 年度 会長 坂井彦就、幹事 宮窪大作

例会記録

第 1986 回例会

令和 2 年 3 月 4 日(水) よいとこ井波

1. 点 鐘 : 会長
2. 国歌斉唱
3. ソング : 奉仕の理想
4. 「四つのテスト」 唱和
5. 入会式 : 熊野隼太 (くまの はやた) 君



6. 月結婚記念日 : 畠中伸一君 (11 日) 坂井彦就君 (24 日) 小西勝君 (29 日 : 欠席)
7. 月誕生日 : 桧原やよい君 (28 日)



8. 会長の時間 : 熊野さんの入会、明るい話題であります。
30 歳若い方です、温かく見守ってあげてください。
私 (坂井会長) が入会したときは、30 人の会員でありました。現在は半減状態です。旅館業業界は、新型コロナウイルスで厳しい状況であります、明るくがんばっていききたいと思います。
9. 幹事報告 : ①理事会報告 : よいとこ井波の「季味の庵」

廃業、しばらく食事は「松屋」さんで。例会場も、今後検討、駐車場も含め。次年度米山カウンセラーを長谷川吉美会員が受けることが了承されました。R 財団地区補助金事業の事前申請が承認された (山本武夫報告)。次期役員名簿提出、協議された (三角エレクト)。②3/11 拡大会員増強委員会延期。③例会変更 : 事務局確認を。高岡万葉・新湊・射水・南砺は来週まで、休会します。

10. 出席報告 16 人中 15 名出席 (93.75%)
11. 委員会報告 : ①雑誌広報委員会 : 「ロータリーの友」記事紹介②親睦活動委員会 4 月 8 日 午後 6 時から 三楽園で設立記念観桜会を開催します。家族おそろいでたくさんの方の参加をお願いします。出席の取りまとめが後日行います。

12. ニコニコBOX (SAA : 本日 9 名)

坂井会長 : 熊野隼太君の入会たいへん嬉しく思います。心より歓迎いたします。

齋藤会員 : 熊野君入会おめでとう。共に学び、共に成長を目指しましょう。

山本武夫会員 : 熊野さん入会おめでとうございます。これからよろしく願いいたします。娘たちが無事ハワイから帰ってきました。本日卓話をよろしく願いいたします。

長谷川会員 : 熊野君の入会歓迎 ! 今後の活躍期待いたします。Fukushima50 封切りになります。待っていたのに行き踏ん切りがつかません、映画館はどうでしょうね。

宮窪会員：熊野君入会おめでとうございます。これからもよろしくお願いします。

山本英会員：熊野さん入会おめでとうございます。

桧原会員：お誕生祝ありがとうございます。熊野さん入会おめでとうございます。これからよろしくお願いいたします。

畠中会員：入会おめでとう。四つのテストを大切に！！

川原会員：熊野さん入会おめでとうございます。なかよくお願いします。

卓話「ロータリー勉強会」 山本武夫会員

山本武夫会員：本来は、3月のロータリー月間「水と衛生」にちなんで話す卓話の時間でしたが、今年度「ロータリーを学ぼう」というクラブ勉強会を年数回開くことになっていたということで、本日、時間を頂いて、熊野さんの入会当日でもあり、小生のわかる範囲ですが、「ロータリーとは、ロータリーの奉仕について」少し話を致します。あとで坂井会長に補足をして頂きます。(プリント1枚配布：以下抄録)

(卓話抄録)

① はじめに：勉強会の意味

② **ロータリーとは**：「ロータリーは人道的奉仕を行い、あらゆる職業において高度な道徳的基準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した実業人および専門職業人が世界的に結びあった団体です。」わかりやすく言えば「職業を通して、自分を磨き人を育て、時には慈善行為、ボランティア活動などを行う世界的な団体」です。ロータリーバッジをつければ、世界中のロータリアンは友人です。先輩も後輩もなく、友達です。*ロータリーの目的：「ロータリーの友」6頁に毎月掲載*「四つのテスト」

③ **ロータリーの奉仕とは**：*「奉仕の理想」：The Ideal of Service：「ロータリーの心と原点」には、Serviceは奉仕でなく、“相手のことを思い、相手のためになるような行為、相手をおもんばかった行為”をさします。Idealも、理想というより、理念といわれています。

*「He profits most who serves best」最もよく奉仕する者、最も多く報いられる（職業奉仕理念）

*「Service above self」超我の奉仕（弱者を助ける人道的奉仕活動の理念）

④ **クラブ奉仕とは**：クラブ運営に参加する（例会出席、「友」愛読、会費納入）の基本姿勢、**ガバナー公式訪問・地区大会や地区研修・協議会に必ず参加**（重要イベント）、親睦、会員増強、卓話、その他のクラブ活動参加：最近、My Rotary 登録など

⑤ **職業奉仕とは**：「奉仕の理想」「四つのテスト」の実践、他の職業を理解し、自分に生かす。：会員卓話（会員の職業談話）、事業所見学（職場訪問）など

⑥ **社会奉仕とは**：地域社会と関連、ロータリアンにとって学びの機会、地域社会にとってロータリークラブの役割を見出す、現状でロータリアンがどのような援助ができるか判断。（事例）障害者・高齢者支援、保健衛生、子育て支援、社会治安向上、才能あり人材発掘支援、文化活動支援、地域発展（産業育成、観光支援、街並整備）環境保全（植樹、清掃、エコ支援）協同奉仕

⑦ **国際奉仕とは**：国際交流、留学生支援、国際理解と親善を推進する人を育成

⑧ **青少年奉仕とは**：新生代を担う青少年の健全育成、RA、IA など

⑨ **ロータリー財団**：寄付が生かされる：「ポリオプラス」など国際的に資金援助し活動、「世の中に良いことをしよう」地区補助金事業、グローバル補助金事業など

⑩ **米山記念奨学会とは**：寄付が生かされる2：日本で学ぶ外国人留学生を支援（日本独自の事業）

第1987回例会

令和2年3月11日(水) よいところ井波2F

1. 点 鐘：会長
2. ソング：我等の生業
3. 「四つのテスト」唱和



4. 米山功労者：齋藤彰会員（8回）
5. 月結婚記念日（小西会員）



6. 会長の時間：齋藤さん、米山功労者（8回）表彰おめでとうございます。毎年度の貢献を感謝します。熊野さんの入会が明るく嬉しいです。新型コロナウイルスの影響で、暗いニュースばかりです、PETS も中止となりました。近隣クラブの例会取消も多く、当クラブも3月の例会は休会します。4/1 理事会、例会は山本会員卓話を、三角エレクトの PETS 報告にいたします。4/8 は観桜会は実施予定。

7. 幹事報告：①2/18 の3RC の会費は、5000 円です。徴収いたします。②本例会後、会員増強委員会開催。③その他、例会変更は事務局に確認を。

8. 出席報告 16 名中 12 名：出席率 75.00%

9. 委員会報告：①三角会長エレクト：先週の例会で、次期役員名簿を提案し、ご助言を頂き一部修正しました。なお、PETS が、懇親会だけ中止の当初の案内から、会合自体が中止となり、次週の PETS 報告予定もなくなり、4 月 1 日の例会を変更して、PETS 報告にさせていただきます。

10. ニコニコBOX(SAA：本日 5 名)

坂井会長：齋藤さん、米山功労マルチプル、おめでとうございます。

小西会員：熊野さん、入会おめでとう。結婚記念日有難う御座います、48 年目？3 カ月余りかかっている店舗改築ようやく完成しました。今日は私の卓話当番、聞いてください。

齋藤会員：米山功労賞を頂き、大変名誉に思います。ますます励みたいと思います。有難う御座います。

熊野会員：初のニコニコ BOX です。先日は温かく迎えて下さりありがとうございました。胸がいっぱいになりました。今後ともよろしくお願い致します。東となみ RC の未来が益々明るいものでありますよう。

山本会員：新型コロナウイルスの影響で世の中会合の自粛モード。大勢の集会は感染の機会が多く止めるケースが多いですね。私の最初の会長した年度はまさに本日東日本大震災の日でした。早いもので 9 年。まだまだ復興半ば、コロナの方は、あと 10 日余り、辛抱しましょう。



卓 話「ロータリー四方山噺」 小西勝会員

熊野さん、ご入会おめでとうございます。先週欠席して失礼しました。自己紹介をして、卓話に入ります。

私は、祖父が庄川ですが、父が川崎に出て、建築請負士をしていましたが、戦災に遭い、井波に帰ってきて、骨董商と土地建物周旋業を始めました。私自身は、福野高校卒業後、YKK に就職しました。就職した理由は、高校時代に、創始者の吉田忠雄さんの自叙伝『善の循環』を読み、心を惹かれたからでした。その後、2 年間で YKK を退社、高岡の繊維会社に 4 年就職後、父の家業を継ぐため、井波に戻りました。

さて、この『善の循環』には、「成果は独り占めしてはいけない。三分配するのだ。ひとつは、よりよい商品を安く提供することで、お客様に。ひとつは、販売、流通など共に努力をしている関連産業に。ひとつは、会社がいただく。会社がいただいた分は、再び三分配する。ひとつは、社員の豊かな生活のために還元、ひとつは、税金を納めることで、道路や下水が整い国民生活が向上、ひとつは、新しい設備に投資し、事業を継続発展する。つまりは、個人や企業の発展がそのまま社会の繁栄とつながっていく。ちょうど、池に石を投げるとその波紋が大きな輪となって広がっていくように、“循環” していくのである」とありました。吉田忠雄氏は、鉄鋼王カーネギーを信奉しており、「他人の利益をはかって、初めて自らも繁栄するのだ」という思想をもち、かのオイルショックの時に、取引先の人達に、我々メーカーが損失を被るから、消費者に出し惜しみや値上げをしないでほしいと、言ったそうです。

それに関連する言葉が、ロータリーにはあります。パスト会員の木村英典さんから随分ロータリーについて教わりましたが、その中からお話します。「Into Their Shoes」という言葉で、例え話の安芸の宮島で、数十年、白木の杓子を作る老人の語った言葉「私はこれを使う人の身になって作るだけで、これを商売と考えるからおかしくなってくる」、まさに、ロータリーの職業奉仕の真髄です。つまり相手の身になって、ということで、職業奉仕の本質を説明する言葉のひとつが先の「into Their Shoes: 買う身になって物を売り、使う身になって物を作り、受ける身になってサービスをする」ということです。

(中略) 齋藤彰さんが今当クラブからガバナー補佐として活躍中ですが、その 7 年前に中尾ガバナーの時に私もガバ

ナー補佐を経験しました。中尾さんは、**Change Rotary** ということを行ったが、変えていかなければならないものは、時代に合わなくなったものもあるが、もう一つ、失ったものを取り戻すことも、ひとつ大事なことで、先輩たちが言っている **Back to the Basic (基本に戻る)** ことももう一つの Change であると言われ、大変共鳴をうけました。今、ロータリー勉強会が行われるのも、わかります。

それから、会員は**例会出席**の義務がある、といわれます。「ロータリーの原点は例会にある」というのは真実ですが、一方「確かにロータリーは素晴らしい、しかし、例会がなければもっと素晴らしい」という笑い話もあるようです。例会やロータリーに関する語録は数多くあり、それらを列記します。**「楽しみながら修練を積む道場」**(米山梅吉)**「例会出席は、童心にかえることができる」**(ポール・ハリス)

「例会は仕事の緊張から解放され、リラックス出来る息抜きの1時間である：競争者がいない、警戒心の必要ない」

「例会は奉仕の精神を充電する1時間である」「例会の出席は健康のバロメーターである」「例会はロータリーの本質である“親睦から奉仕へ”の出発点であり、ロータリーの基本活動である」「例会は異業種の人達との情報交換の場である」「仕事第一、ロータリー第二、仕事を犠牲にしてまで例会に出席しなければならない程ロータリーは価値があるものではない：この言葉の深い意味は、何よりも自らの職業意識に忠実であること、ロータリーは何よりもその人の職業を尊重する。自分の職業を愛する事、そこからロータリーが始まる。自分の職業に誇りを持ち、モラルを高める事、そこから職業奉仕が生まれる」「**1 に仕事、2 に仕事、3・4 は別にあって、5 にロータリー**」これがロータリーと永くつきあう秘訣であります。

かつて、池田茂パストガバナー補佐（新湊中央 RC）が「ロータリークラブは奉仕活動をしているのに、奉仕団体でない。財団や米山奨学会に寄付しているのに、寄付団体でない。ロータリーは宗教でないというが、綱領やら、四つのテストやら、難しいことを云うところは、どこか宗教に似たところもないではない。では、一体ロータリークラブとは何なんだ」と、卓話で話されました。「ロータリー入門書」には、**「ロータリークラブとは、奉仕をする団体出なく、奉仕する人々の集まりである」**とあります。昨今、員数集めの会員増強はロータリアン個人の性格や個性は

軽視され、数だけで全てが評価される風潮を作り上げた。その結果、個人としての自覚と責任感は薄れて、みんなで渡れば怖くない、みんなで行こうどこまでも、と組織で行う活動が主流になっていきました。悪いことではないのですが、その結果、自分たちの会がどんな会なのかかわからないのでは笑い話にもなりません。私が入会時に先輩から、ロータリークラブ（RC）とライオンズクラブ（LC）の違いをこのように教わりました。「LCは川の掃除はするが、RCは自分の家から汚水を流さないよう心掛ける」というものでした。因みにLCのモットーは“**We Serve**”（我々は奉仕する）であります、**RCは、“I Serve”**であります。

最後にこれも先輩からの**「6人の盲人が、象をどの様なものか見ようとした話」**について、最初の盲人は、象の固い胴を触ってみて、象とは壁のようなものだと言います。次の盲人は、象の牙に触れて、槍のようなものだと叫びました。3人目の盲人は、鼻を撫でてみて、象とは大蛇みたいなものだと断言しました。4人目の盲人は、太い脚の1本を撫でてみて、象は大木のようなものと言いました。5人目の盲人は、たまたま耳に触れ、団扇に似ていると主張しました。そして、最後の盲人は、確信をもって、象は綱のようなものと言い切りました。彼は象の尻尾を掴んでいたのです。これは、ポール・ハリスの自著「**This Rotarian Age**」の中に出てくる引用文です。ロータリーのことをよく理解しない人や早くに退会する人は、どこかこの盲人に似ているところがあります。この盲人たちは、それぞれ1点づつ正しいのですが、全体的にみると、言わばみな間違えているのです。例会などをみて、これがロータリーだと思い込む悲しい人達があります。世の中には、人間の眼以外のもので見なければ見えないものがあると言われます。ロータリーはまさにその典型と言えましょう。ロータリーを理解するには10年はかかると言われてます。そして、一旦ロータリーが理解できれば、その人は健康の続く限り絶対にロータリーはやめることは無いと言われてます。

熊野さんの入会に際して一言、是非これから、ロータリーとお付き合いを宜しく願います。

（会報委員：川原、長田 協力 山本）